

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2003. 6

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 230

日本野鳥の会 埼玉県支部

入間川の11年

長谷部謙二 (川越市)

はじめに

狭山市の入間川で最初に探鳥会が開かれたのは、90年7月のことである。同年11月、91年3月に行なわれ、同年11月から定例探鳥会となった(奇数月の第4日曜日)。

10年以上の経過を機に、あらためて探鳥地を紹介し、またこれまでの記録をまとめてみた。

探鳥コース

入間川探鳥会の起点は、集合場所の狭山市駅西口と入間川のほぼ中間にある八幡神社となっている。

神社を出発し、入間川に架かる新富士見橋へ向かう。基本コースは、ここから上流の広瀬橋までの右岸を歩くが、河原の状況によって左岸に変更することもある。水辺の鳥たちを楽しんだら、今度は稲荷山公園をめざす。

入間川から稲荷山公園の間は、住宅地や交通量の多い道路を通るので、鳥見は小休止。少し我慢すれば、やがて公園の裏側に着く。雑木林を左手に見ながら公園内に入り、山の鳥を探す。ここで鳥合わせ、解散となる。

入間川

3月、まずはじめにやって来るのは、ツバメ・イワツバメ・コチドリだ。身近な鳥でもほぼ半年ぶりの再会はうれしい。入間川に渡って来る夏鳥は、北へ帰る冬鳥に比べ種類が少ない。したがって全体の観察種数は減るのだが、囀りがあるため冬とはちがったにぎやかさがある。よく見られるのは上記3種の他に、オオヨシキリ・ササゴイがいる。オオヨシキリは、本富士見橋と田島屋堰の間の左岸と、広瀬橋の上流右岸でよく囀っている。ササゴイは、田島屋堰の下あたりにいることが多い。いずれも個体数は多くない。

梅雨が明け、日差しがさらに強くなった頃にも探鳥会がある。炎天下の河原で、貴重な日陰をつくる3本の橋。この橋の下を移動しながら、休み休み鳥を見る。普段エアコン生活に慣れきった人は、たまにはここで汗を流そう。ただし体調万全な時に限る。夏の暑さは予想以上に体力を奪うから。

9月、渡り途中の鳥情報が聞こえてくる。入間川では、ショウドウツバメ・アマツバメ・サンバなどの記録がある。シギ・チドリ類については、渡りの中継地ではないのか、時季が合わないためか定かではないが、5月にキアシシギの記録が1回あるのみ。

11月下旬になると、冬鳥たちがほぼそろそろ。代表

は、やはりカモ類で、カルガモ・コガモ・オカヨシガモの割合が高い。一般的に数の多いオナガガモやヒドリガモは、ここでは少数派。観察場所は、田島屋堰と広瀬橋の間がいい。カモ類の他冬鳥たちも3月いっぱい楽しめるだろう。

稲荷山公園

稲荷山公園は、北西側にクヌギ・コナラ・アカマツなどの雑木林、南東側には芝生の広場、また通路は桜並木になっている緑濃い公園だ。河原ほど多くの鳥は望めないが、緑に囲まれて、鳥を見ながらのんびりと過ごすことができる。

春から夏にかけては、鳥の種類は少なく、コゲラ・シジュウカラ・メジロなどの留鳥たちが主役となる。鳥は少なくとも新緑の5月は気持ちいいし、7月は灼熱の河原からやって来るので、緑陰に入ると生き返る。緑のありがたさを実感する一瞬だ。

9月の探鳥会は、渡りの時季にあたり、ジュウイチ・サンコウチョウが一回ずつ記録されている。エゾビタキ・コサメビタキ・キビタキなども期待されるのだが、本番では出ていない。個人的に探鳥会後ツツドリ・キビタキ・エゾビタキを見たことがあるので、可能性はあるのだが。

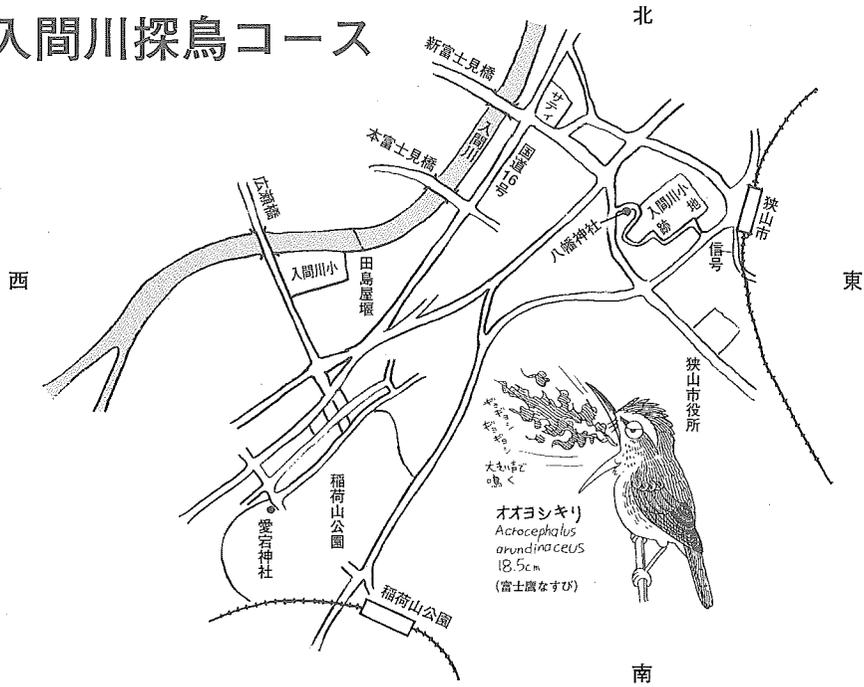
入間川探鳥会は隔月のため、まだ暑い日もある9月から、初霜や初氷の季節に跳んでしまう。いつのまにか、ビンズイ・カケス・カラ類・ツグミの仲間がやって来ている。落ち葉をかきわける音や小さな地鳴きをたよりにたんねんに探そう。

稲荷山公園には、サクラやキンモクセイ・ハクモクレンなど花の楽しめる木が多い。また、公園北側の配水場の下にはカタクリの自生地があり、3月の探鳥会の見どころの一つにしている。探鳥会にはやや早く、開花直前のことが多い。4月1日前後がよさそう。小さな自生地で株数は少ないが、興味のある人はどうぞ。

おわりに

今回、12年目にして初めて記録をまとめることになった。記録は月別の出現回数で示してある。作業をしながら、11年もよく続いたものだった。しかし、内容について考えると、正直言って自信がない。単なる趣味の鳥見の会であったように思えて…。リーダーとしての責任や役割について言及するのは、また別の機会にしておこう。今回は、探鳥地紹介と記録の整理ということで。

入間川探鳥コース



回数	回数						回数	回数						
	1月	3月	5月	7月	9月	11月		1月	3月	5月	7月	9月	11月	
1	10	10	4	7	8	11	51	コゲラ	9	10	8	8	8	9
2	9	9	5	3	5	8	52	ヒバリ	9	11	11	7	4	9
3	5	2	8	9	3	6	53	シヨウドウツバメ	0	0	0	0	2	0
4	0	0	7	10	2	0	54	ツバメ	0	10	11	11	7	0
5	0	0	1	0	0	0	55	イワツバメ	1	9	11	11	2	0
6	8	7	4	4	4	9	56	キセキレイ	8	7	3	5	4	11
7	0	0	0	1	0	0	57	ハクセキレイ	10	11	11	11	9	12
8	10	11	10	11	9	12	58	セグロセキレイ	10	11	11	11	9	12
9	5	2	2	3	2	5	59	ビシズイ	4	2	0	0	0	7
10	1	0	0	0	0	1	60	タヒバリ	4	3	0	0	0	6
11	6	2	0	0	0	5	61	ヒヨドリ	10	11	11	11	9	12
12	10	11	11	11	9	12	62	モズ	9	9	4	2	8	11
13	10	11	0	1	4	12	63	ルリビタキ	4	0	0	0	0	0
14	1	1	0	0	0	0	64	ジョウビタキ	7	6	0	0	0	10
15	7	3	0	0	0	6	65	トラツグミ	1	0	0	0	0	0
16	0	2	0	0	0	2	66	アカハラ	0	1	0	0	0	0
17	8	2	0	0	0	5	67	シロハラ	2	4	0	0	0	0
18	8	7	0	0	0	6	68	ツグミ	10	11	0	0	0	11
19	5	1	1	0	0	2	69	ウグイス	6	6	1	0	0	7
20	8	5	0	0	0	4	70	コヨシキリ	0	0	0	1	0	0
21	1	0	0	0	0	0	71	オオヨシキリ	0	0	8	2	0	0
22	6	10	9	5	3	12	72	メボソムシクイ (注)	0	0	2	0	0	0
23	1	3	0	1	1	2	73	キクイタダキ	0	2	0	0	0	0
24	0	1	1	1	0	0	74	セッカ	2	2	8	7	0	4
25	2	1	0	0	0	0	75	サンコウチョウ	0	0	0	0	1	0
26	0	0	0	0	3	0	76	エナガ	4	2	1	2	2	6
27	0	4	0	0	1	5	77	ヒガラ	2	2	0	0	0	2
28	1	6	6	2	1	4	78	ヤマガラ	5	4	0	0	5	5
29	2	2	5	4	3	2	79	シジュウカラ	10	11	11	11	9	12
30	1	1	1	0	0	2	80	メジロ	10	8	6	6	3	10
31	0	9	4	1	0	0	81	ホオジロ	10	11	11	11	5	12
32	9	9	4	5	4	9	82	カシラダカ	8	7	0	0	0	5
33	3	1	0	0	0	2	83	ミヤマホオジロ	1	0	0	0	0	0
34	0	0	1	0	0	0	84	アオジ	10	11	0	0	0	10
35	10	11	11	9	9	12	85	オオジュリン	2	2	0	0	0	0
36	3	4	0	0	0	2	86	カララヒワ	10	11	11	10	9	12
37	8	2	0	0	0	10	87	ベニマスシコ	0	1	0	0	0	0
38	0	1	0	0	0	0	88	イカル	0	0	3	3	0	0
39	0	0	0	0	0	1	89	シメ	8	8	0	0	0	7
40	10	11	11	11	9	12	90	スズメ	10	11	11	11	9	12
41	0	0	0	1	0	0	91	ムクドリ	10	11	11	10	9	12
42	0	0	3	2	0	0	92	カケス	3	3	0	0	1	4
43	0	0	1	0	0	0	93	オナガ	9	9	11	11	5	7
44	0	0	0	1	0	0	94	ハンボソガラス	10	10	8	10	8	10
45	3	2	2	1	1	3	95	ハンソトガラス	10	11	10	9	8	12
46	0	0	0	0	2	0								
47	9	9	8	5	7	11								
48	0	0	0	0	0	1								
49	5	6	4	4	1	4								
50	2	0	0	0	1	0								

(注1) 湖常コースからかなりはずれている。
 (注2) 2回とも亜種コムボソムシクイ
 ○記録は91年11月～03年3月
 定例前の90年3月、11月 91年3月の記録は含まれない。

野鳥記録委員会の情報

日本野鳥の会埼玉県支部 野鳥記録委員会

●ワキアカツグミを追加

分類 スズメ目ツグミ科ツグミ属

英名 Redwing

学名 *Turdus iliacus*

報告者 鈴木紀雄(春日部市)

観察場所 春日部市内牧と宮代町中にまたがる地域

報告内容 2003年3月18日(火)午前8時過ぎ、上記地域荒地の灌木に止まっているツグミ類1羽を双眼鏡で見たところ、一見ただのツグミだが、横向きの際に、上面がべたっと灰褐色でツグミのような翼のレンガ色がなく、翼の下の脇が赤褐色であることが見え、まずはハチジョウツグミを考えた。

約1時間ほど、飛んだのを探したり、順光位置に回り込むなどして観察。その間、その個体は灌木帯を動き回り、林内に入ることはなかった。

なかなか背と側面しか見えず判断しかねたが、胸は黒斑のみで赤褐色がない、眉斑と頬線がくっきりと白い、頬線の下に頬線に沿った黒線が見えることから、ワキアカツグミを考えるようになった。

嘴基部は黄色。足は黄褐色。三列風切の羽縁が淡色なので、第1回冬羽ではないかと考えられた。全体にツグミより幾分小さく感じられた。

鳴き声がツグミのキョッキョッではなく、アカハラのようなシーーという声だったので、これを聞いた時点で、ワキアカツグミと確信した。

十王館守氏(葛飾区)が午後2時頃、水のためたまった堀から飛び上がり、枝にとまったところを撮影(右上写真)。嘴と足に泥がついて、胸あたりは濡れている模様。

3月19日(水)と20日(木)にも目撃され、20日(木)午前8時30分頃には本橋弘邦氏(板橋区)によって撮影された。その写真によれば、下尾筒にも暗褐色の斑があるのがわかる。



日がたつにつれて林内に入ることが多くなり、出現頻度は少なくなった。20日(木)は朝8時台までしか出ず、21日(金)以後は早朝に見られたらしいものの、情報の確からしさは不明。22日(土)、23日(日)、24日(月)、26日(水)も一応現場を探したが、見つからなかった。

以上の報告を受けて委員会としては、ツグミの個体変異の範囲内と考えられる部分もあるが、総合的に見てワキアカツグミとして記録して差し支えないと判断しました。

県内野鳥目録313番目の追加になります。

●県内野鳥チェックリスト2003年版

2000年版が残りが少なくなったので、2003年版を作成しました。追加したのは次の9種、合計312種になりました。

オオハム 2002/10 戸田市

シロエリオオハム 2001/02 浦和市

コクガン 2002/11 本庄市

カリガネ 2001/02 戸田市

メジログモ 2000/04 戸田市

ハシグロクロハラアジサシ 2000/06 浦和市

マミジロキビタキ 2001/05 さいたま市

ユキホオジロ 2001/03 本庄市

ミヤマガラス 2000/12 蓮田市

鳥学会の目録第6版に準拠していますが、支部独自の判断で、コジュケイとサバンナシトドを加えてあります。ワキアカツグミはこのリストには間に合いませんでした。

カワセミの巣の中

更科 三郎 (入間市)

1. はじめに

繁殖行動中の鳥の巣には近づかず、ましてや、土の中のカワセミの巣はあばかないと決めています。見聞きしたこと、文献を読んだことなどで膨らませたイメージでカワセミの巣の中の様子を推理してみます。

2. 巣の出入り作法

巣に入る時は、いついかなる時も近くの止まり木を登進して頭から一気に入ります。出方には、前向きと後ろ向きの両方を見ることができま。後ろ向きで尾の方から出てくるのは、巣が完成していないとき、雛が大きくなって産室に踏み込めないときなど、産室で向きを反転できない状況が巣の中にあると想像します。前向きの出方では、産卵中および卵と雛を抱いているときなど、産室で反転のできる状況を想像します。

その他、孵化が終わると親は卵の殻を運び出します。フンは尿と一緒に排泄ですので出せません。トンネル内へ垂れ流しです。

3. 産卵

繁殖に適した条件が整っていれば、一回の営巣で4個ないし6個の卵を産みます。夜間に産むことが多いようです。一日に一個ずつ産みます。

卵の色は、光沢のある純白です。木の洞に巣を作るフクロウ類、キツツキ類の卵も白色です。

鳥の卵の形には、球形、卵形、洋梨形などがありますが、カワセミは球形です。

カワセミの卵は、親の体重(約35グラム)の約20%ぐらいとする仁部富之助さんの報告があります。単純に算出すると卵の重さは約7グラムとなります。

4. 抱卵

一腹卵数を見極め、納得する数だけ産み終わると、産卵中には抱卵していなかった親が胚の発生を早めるために抱卵を始めます。産室内の温度は真夏でも38℃とする報告があります。胸や腹の羽毛で包み、素肌と血管から伝わる体温を効率よく卵に伝播させるように

抱きます。羽毛が体温の散逸を防ぐ保温断熱の作用をするので、抱卵期間中、胸毛をむしり取って素肌を露出させる鳥もいると聞きます。抱卵斑です。カワセミにはこの抱卵斑は現れません。抱卵はおおむね一日オス三回、メス三回の交代制です。夜間はメスが巣に留まり、11時間余に及ぶ抱卵をします。抱卵期間は約19日間です。

5. 孵化

卵殻を打ち破るために雛に与えられたものは、上側の嘴の先端にある硬く鋭く尖った卵歯と、頸を前後に動かすための後頭部に備わった孵化筋とがあります。また、東ねられた三本の矢のように強力な合趾足が卵殻を蹴り破るのでしょうか。親が殻を運び出す姿を観察できれば孵化を知ることができます。

6. 育雛

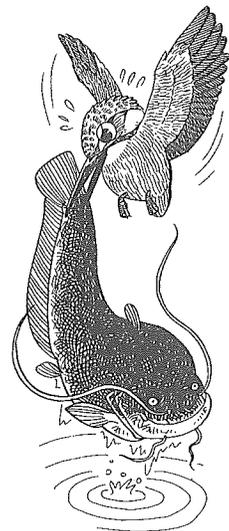
体に毛のない丸裸の晩成性の雛の誕生です。巣立ちの時まで親が面倒をみます。この育雛期間は23~25日とする報告があります。

雛への給餌は、最初は小さい魚などで、成長の早い雛は育雛14~15日ころには親よりも体重が重くなってしまいます。一日当たり一羽の雛に与えられる餌は、7~10匹という報告があります。

7. 巣立ち

巣立ちが近くなると雛への給餌が極端に少なくなり、雛のダイエツが行われます。巣立ちには早朝に行われるようです。

巣の中の物語はまた一年後に始まります。



カット富士鷹なすび



岩槻市文化公園 ◇2月5日、ルリビタキ♀1羽、エナガ2羽、アトリ約15羽など39種確認。2月14日、ルリビタキ♀1羽、エナガ2羽十など32種。2月17日、オオタカ成鳥1羽、上空を舞う。ルリビタキ♀、ヨシガモ♀など。2月18日、ヨシガモ♀はいつもヒドリガモに混じっている。今日もオオタカ1羽が林の上を舞い、小鳥達が一齐に警戒体制。カワセミ♂2羽♀1羽が目立つ。縄張り争いとつがい形成の争いか？ルリビタキ♀は2ヶ所が出るが、いつもどちらかだけで、同日に2羽とならない。エナガ2羽、元旦以来ずっといる。アトリ約20羽、林床で採餌していた。ベニマシコ♂若鳥2羽♀1羽「フィッフィッ」と鳴き交わしつつブッシュに出現。ここでは珍しい。2月25日、ルリビタキ♀、村国池奥の林縁で動き回っていた。小鳥達の警戒の声で上空を見上げると、なんとハヤブサ1羽が、旋回しつつ高度を上げ、やがて南へ。2月28日、カワウ、アオサギ、ダイサギ、カルガモ、コガモ、キジ♂1羽、イカルチドリ、イソシギ、ジョウビタキ♀、ウグイス、シロハラ、ツグミ、メジロ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン2羽、マヒワ1羽、シメ、カケス3羽カシラダカなど33種確認。ここでキジ、オオジュリンは珍しい。マヒワが1羽だけいた。ホオジロは気が早いのか、きれいにさえずっていた。3月12日午前8時40分～9時50分、アカゲラ♀1羽、ルリビ



チュウシャクシギ (編集部)

タキ♀など36種確認。3月17日午後12時30分～2時30分、元荒川で久しぶりにハシビロガモ♂1羽、ヨシガモ♀1羽、ルリビタキ♀1羽、トラツグミ1羽、アトリ3羽、そして1月22日以来のアリスイ1羽など38種確認。3月29日、まだアトリ約20羽がいた(鈴木紀雄)。

岩槻市長宮 ◇3月17日午前9時30分頃、農道脇でホオアカ3羽確認。立派に越冬したようだ(鈴木紀雄)。

岩槻市加倉5丁目 ◇3月27日、自宅付近でツバメ1羽(藤原真理)。

春日部市牛島 ◇3月2日、古利根川で川面でユリカモメ19羽、セグロカモメ1羽(鈴木紀雄)。

春日部市内牧及び宮代町中 ◇3月18日午前8時過ぎ、荒地の灌木にとまるワキアカツグミ第1回冬羽を確認。午後2時頃、駆けつけた方に撮影をしてもらった。その他、アカゲラ♂♀、ヒガラ1羽など。3月20日午前8時30分頃、「シーッ」と鳴いて枝にとまるワキアカツグミを大勢の人々と確認(鈴木紀雄)。(詳細報告は4ページに)

蓮田市黒浜 ◇2月28日、東埼玉病院の林で久しぶりにマヒワ10羽十、初冬に見た以来で、今冬この辺りで越冬したマヒワ群はいないと思われるので、春の移動に伴う観察と思われる。3月3日、オオタカが「キッキキッキ」と鳴き、カラスが騒いでいる。ルリビタキ、「ゲッゲッ」と鳴いているが姿見えず。ヒバの実にたかるマヒワ約30羽の群れを双眼鏡で見ていると、おでこの赤と胸がピンクの個体、ビックリ！ベニヒワのみでした。以後、3月4日午前10時30分頃、3月5日午前9時10分頃、少しの間ですがマヒワ小群とともに出現。3月5日には、ハイタカも出現。3月6日午後1時頃、ゴルフ場の森でマヒワ約30羽群れ中にベニヒワ♂1羽。東埼玉病院敷地内東縁で待っている人々に知らせようと急行したら、そっちにマヒワとともに飛んできた。3月11日午前8時過ぎ、ゴルフ場の森でベニヒワ♂1羽。午後オオタカ成鳥1羽若鳥1羽飛翔。アトリ約10羽、ルリビタキなど

(鈴木紀雄)。

吉川市半田 ◇3月5日午前10時6分、タゲリ5～6羽、吉川駅から新三郷駅方面に車を走らせていたら田んぼに降りていた。同じ場所で3回位観察した(小菅靖)。

さいたま市南部領辻 ◇3月3日午前7時40分頃、見沼田んぼでタゲリ1羽。通勤中の車の中から観察(藤原寛治)。

さいたま市秋ヶ瀬 ◇3月5日午後4時17分頃、子供の森でヒレンジャク2羽、夕方観察する人が少なくなってきた頃、2羽中1羽が、目のヤドリギに移動してきたところをスコープにデジカメをセットして写しました(大塚操)。3月30日午後1時30分頃、オオタカ1羽が秋ヶ瀬上空をゆっくり旋回しながら荒川の主流へ飛翔。午後3時50分頃、荒川取水堰付近の田んぼで暗色型コクマルガラス1羽(志賀敢)。

さいたま市鴨川 ◇3月16日午後2時30分頃在家橋と島根橋との中間あたりでカワセミが「チーッ」と鳴きながら、1羽、また1羽と、合計3羽。水面すれすれに川下へ飛び去った。他にホオジロ、ハクセキレイ、スズメ、コガモも見られた。また、少し上流の根切橋付近では、カワウが2羽、潜水を繰り返していた(大塚純子)。

さいたま市大谷 ◇3月17日午後3時頃、環境広場でコチドリ7羽。3月23日午前10時頃、クサシギ1羽、コチドリ7羽(鈴木紀雄)。

さいたま市見沼 ◇3月27日、ツバメ4羽(鈴木紀雄)。

さいたま市JR北浦和駅 ◇3月28日、ツバメ1羽、駅のホームで見る。西口、東口と元気よくピンピン飛んでいた(海老原教子)。

戸田市道満グリーンパーク ◇3月23日、池



アマサギ(編集部)

南端でオオバン、バン、カワウ、カイツブリ、キジバト、ハクセキレイ、ムクドリ、ヒヨドリ、オオジュリン、ウグイス、ツグミ、シジュウカラ、モズ、カワラヒワ、スズメ、ハシボトガラス。同日、釣り堀でカワセミ、カワウ、ユリカモメ、カルガモ、カイツブリ、オナガ、スズメ、ムクドリ、ヒヨドリ、ハシボトガラス。釣り人が放置した餌に12羽のムクドリが、我先にと群がる。オナガ3羽が遠巻きに交代で群れの中へ瞬間的に入るが、遠慮がちにすぐ群れの外へ。ムクドリと争う気配なし(陶山和良)。

渡良瀬遊水地 ◇3月23日午後、ミヤマガラス約35羽、ノスリ3羽、チュウヒ5羽、ハイロチュウヒ♂♀各1羽、ミサゴ3羽、コチョウゲンボウ♂1羽(鈴木紀雄)。

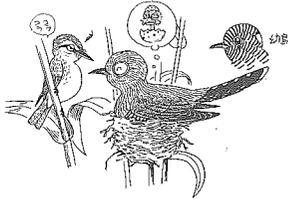
深谷市仙元山公園 ◇4月6日午前10時頃、トラツグミ2羽、昨年暮れからよく姿を見せてくれたトラツグミだが、2羽一緒にいた。ペアが成立したらしい。1～2歩歩いては、体を上下に揺すって、落ち葉を踏み縮めるような動作をしきりに繰り返していた。脚で餌を探っているように見えたが、どうなのでしょう(新井巖)。

表紙の写真

ズグロミゾゴイ(コウノトリ目サギ科ミゾゴイ属)

2003年3月26日、沖縄県西表島にて。撮影：松村禎夫 前月号4ページの珍鳥「アマザキ」の正体は、アマサギです。一方、このズグロミゾゴイは本物の珍鳥。東南アジア、中国南部、台湾などに生息していますが、日本では沖縄でしか見ることができません。しかも数は多くなく、沖縄地方に行けば必ず見られる、というものでもありません。主に夕方から活動し、トカゲ、カエル、甲殻類などを食べます。解説：編集部

行事案内



カッコウ（富士鷹なすび）

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般 100 円、会員と中学生以下は 50 円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後 1 時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集会所までお出でください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月1日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス8：25発にて「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、立岩、永野（安）、永野（京）、山野、樋口

見どころ：英語のグリーン（緑）とグロウ（育つ）の語源は同じとのこと。万緑の候、谷津にカッコウの鳴き声が響きます。アシ原にひそむ忍者、ヨシゴイを探しましょう。

注意：バスの時刻が変更になっています。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月8日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居8：49発に乗車。

担当：中里、和田、後藤、森本、倉崎、高橋（ふ）、藤田、栗原、大澤、飛田

見どころ：たんぼの緑も色濃くなり、その上をツバメがしきりと行きかっています。鳥たちは子育てに忙しい毎日です。明戸堰でカイツブリ、パンの親子づれをそっと覗かせてもらいましょう。土手には初夏の風、カッコウの声を聞きながらひと時を楽しみましょう。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

〈差間コース〉

期日：6月1日（日）

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場から、大崎園芸植物園駅行き8：31発に乗車にて、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤（芳）、工藤、倉林、若林、吉岡（洋）、新井（勇）、土澤、石田

見どころ：緑が一番美しい季節になりました。鳥たちは子育てたけなわ。入梅前のひと時をのんびりと過ごしましょう。

注意：調節池工事中のためコース変更の場合あり。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：6月15日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、兼元、森（力）、赤堀、小菅、新部

見どころ：見沼たんぼは一面の緑。4月の政令都市の指定に伴い、探鳥地は緑区となった。名前のとおり緑があふれて、鳥が飛び、蝶々が飛ぶ、そんなところにしたいです。カルガモの親子連れが見られるかな。静かな季節に見沼たんぼを鳥見しながら歩いてみよう。

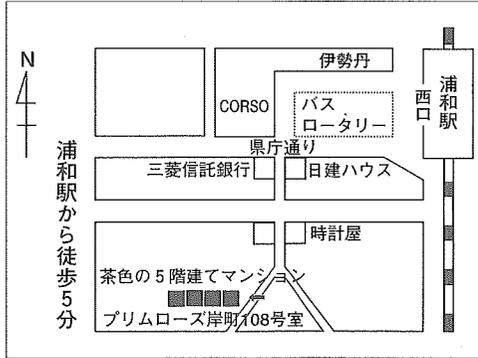
『しらこぼと』袋づめの会

期日：6月21日(土) 午後1時～2時ころ

会場：支部事務局108号室

案内：この時季は曇りと雨模様の日が続く。

しかもうっとうしい。そんなときには
会場にいらして、気分転換のおしゃべり
と、いつものお仕事をお願いします。



坂戸市・高麗川探鳥会

期日：6月22日(日)

集合：午前9時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越8：13→坂戸にて越生
線乗り換え8：42発。または寄居7：53
→小川町乗り継ぎ、坂戸にて越生線乗
り換え。JR川越線大宮7：35→川越
にて東武東上線乗り換え。

担当：藤掛、高草木、青山、池内、池永、久
保田、志村、増尾、佐藤(壮)、杉原、
原、藤澤、山田(義)

見どころ：昨年の探鳥会で堀久江さん撮影の
ビデオ、イカルチドリとコチドリの子
育ての様子がNHKで放映されました。
河川は天神橋と、城山橋上流が改修さ
れ一段とコースがよくなりました。野
鳥とリーダー、鳥仲間もお待ちしてい
ますので是非お出かけください。

支部会員のビデオ発売

佐藤進氏(さいたま市)が36回の外国旅行を含めて7年半にわたり撮影し続けたビデオ映像が、プロの手で編集され、真木広造氏の監修と大西敏一氏の解説が付き、『日本の鳥 618』



として、山と溪谷社から発売されました。

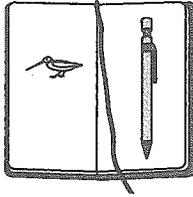
VHSで1巻60分。全10巻。1巻3,000円。全10巻1セット30,000円。送料、消費税別。

日本の鳥590種、外来種23種、今後国内に飛来する可能性のある鳥5種、合計618種をすべて一人で撮影し尽くした力作です。

本人へのご注文は、携帯またはFAXへ。

山と溪谷社へのご注文は、TEL 03-3436-4040、FAX 03-3433-4057までどうぞ。





行事報告

1月13日(月、休) 松伏町 緑の丘公園周辺

参加: 15人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ アマサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ホシハジロ チョウゲンボウ イカルチドリ イソシギ ユリカモメ シラコバト キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 公園造成地での2回目の探鳥会。南北の池の接続工事が長引いて、カモ類の数が少なかった。この2年半毎月観察しているが、カモはホシハジロで10種目になった。アマサギが観察されたが、脚の怪我による残留と思われる。また、池でイタチが魚を狙っていた。この公園は少しずつ時間をかけて作り上げる自然観察公園であるが、鳥獣が安心して暮らせるように、人間との距離を置いた環境にするよう行政に働きかけていきたい。(橋口長和)

2月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 27人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ ホオジロガモ トビ セグロカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ トラツグミ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 夜半の雨もすっかり上がり、気持ちのよい暖かな朝。「冴え返る土手道」とは程遠く、2ヶ月前に執筆する「行事あんない」の難しさをあらためて感じた。明戸堰ではホオジロガモの♀が複数見られ、対岸のコハクチョウは、解散後に行ったら、221羽との掲示があった。(榎本秀和)

2月9日(日) さいたま市 大宮市民の森

参加: 62人 天気: 晴

カイツブリ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ クイナ バン オオバン タシギ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ マヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 公園のロウバイ、紅梅、白梅が参加者を出迎えてくれた。季節にしては気温が高めで、開始前よりヒバリがさえずる。カワセミは残念であったが、クイナと当コース初観察のマヒワが出現し、場を盛り上げてくれた。今回も新聞(2紙)に行事案内が掲載されたので参加者が多かった。(工藤洋三)

2月11日(火、休) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 13人 天気: 曇

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホオジロガモ ミコアイサ カワアイサ ミサゴ トビ ハイイロチュウヒ チュウヒ コジュケイ キジ オオバン タゲリ ハマシギ イソシギ タシギ セグロカモメ シラコバト キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (52種) 早朝に雨が降ったが、探鳥会では傘が不要だった。天候悪化の心配からコースを短縮して出発し、水面に浮かぶ鳥に加えてその上を飛ぶミサゴ、チュウヒやハイイロチュウヒを、少人数だったが皆でじっくり見ることができた。小雨の中を来た参加者は得をした探鳥会だった。(玉井正晴)

2月13日(木) 戸田市 彩湖

参加: 35人 天気: 晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ バン オオバン イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト アカゲラ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 無風、晴。奥秩父の山々もかすんでいる。釣堀の林ではアカゲラ。久しぶり。カシラダカが高い木の上で白い腹を見せている。ヨシガモの群れを見ながら北へ。もうカンムリカイツブリが群れになり始めている。色も少し変わってきたようだ。そして、今日もタカ目は出ない。(倉林宗太郎)

2月15日(土) 上尾市 丸山公園

参加: 33人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ オオタカ ハイタカ キジバト トラフズク コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 集合場所近くの小池にカルガモが多く見られた。管理事務所付近のこずえでアトリの群れを発見して皆大騒ぎ。滝の池ではウグイスが枝から枝へ。順光で姿がとてもきれいだ。カワセミの池は主人がお留守。荒川の土手に上がったが、富士は雲隠れ。仕方なく期待のトラフズクの待っている榎の木へ向かった。(大坂幸男)

2月15日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 7人

海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、藤掛保司、藤野富代、松村禎夫

2月16日(日) 深谷市 仙元山

参加: 35人 天気: 曇時々小雨

カワウ カルガモ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロ

セキレイ ビンズイ ヒヨドリ ジョウビタキ
トラツグミ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ カシラダカ アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 市報や新聞で紹介された影響で、小学生を含め、市内の方が多く参加された。仙元山の斜面のやぶが刈り取られたり(防犯上の理由で)、アカマツが伐採されたり(松くい虫対策)していて観察への影響が心配されたが、それでもシロハラ、トラツグミ、ビンズイは全員で観察できた。特に小学生の興味津々の表情にリーダーの疲れも緩和された。(小池一男)

2月16日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 27人 天気: 曇後雨

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ オオタカ バン キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ルリビタキ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ ウソ シメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 目玉のオシドリを下見で確認したコースを設定したが、当日はどこかに移動。カモ9種を観察できたのでご勘弁を。後半は雨となり、谷津さんの情報で、中央口に新設された多目的ホールを借用。鳥合わせと昼食場所が確保できてほっとした。アフターでは、梅、福寿草等を観賞。甘酒、中華まんじゅうで別腹を楽しんだ人たちも。(藤掛保司)



差間探鳥会にて(藤野富代)

連絡帳

●支部総会を開催します

日時：平成 15 年 6 月 29 日（日）

午後 1 時 受付開始

午後 1 時 30 分～2 時 30 分 記念講演

午後 2 時 30 分～4 時 30 分 総会

会場：さいたま市民会館うらわ 706 集会室

交通：浦和駅西口から県庁通りを県庁に向かって西進、埼玉会館の角を右折、玉蔵院境内を通り抜けた先の左側。駅から徒歩約 8 分。

記念講演：鈴木正男常務理事「日本野鳥の会の今と未来」。野鳥の会本部事務局で日々陣頭指揮に当たっている同氏が、現状と展望について率直に語ります。

総会議題：平成 14 年度事業報告と決算報告、平成 15 年度事業計画と予算案、平成 15 年度役員を選出。

支部会員であればどなたでも参加できます。支部規約に基づいて昨年度の支部活動を振り返り、今年度の方針や予算を決める大切な総会です。多数の方のご参加をお待ちしています。総会終了後、支部事務局内で懇親会も予定しています。

●今年も「1000 円で自然保護」

今年のピンバッジは、サンコウチョウ。1 口 1,000 円のご寄付であなたもバードメイトです。一部探鳥会でもご紹介していますが、下記枠内の本部会員室、または shiryuu@wbsj.org で直接申し込むことも出来ます。

●全国一斉野鳥販売実態調査

同調査 2002 の結果データ集によれば、埼玉県内では 5 人から 5 件 4 店舗について、オオルリ、ホオジロ、マヒワ、イカルなどが販売されていたとの報告が寄せられました。全国では、175 人から 541 件、482 店舗の報告で、日本産

と同種の鳥 94 種が販売されていたとのことです。

過去 3 年間の調査結果に基づいて、本部と全国野鳥密猟対策連絡会の連名で、3 月末に販売店業会（日本小売業協会、日本百貨店協会など）に野鳥販売自粛の要望書を提出しました。

今年も同調査 2003 が、5 月 10 日から 6 月 30 日まで実施されます。詳しくは本部自然保護室 hogo@wbsj.org または TEL042-593-6872 にお問い合わせください。

●6 月の事務局 土曜と日曜の予定

7 日（土）7 月号編集作業。普及部会議。研究部会議。

14 日（土）7 月号校正。

15 日（日）役員会

21 日（土）袋づめの会。

●会員数は

5 月 1 日現在 2,540 人です。

活動報告

4 月 12 日（土）5 月号校正（海老原美夫・大坂幸男・志村佐治・藤掛保司・山田義郎）。

4 月 18 日（金）寄付行為委員会、22 日（火）常務会に出席（海老原美夫）。

4 月 20 日（日）役員会議（司会：田中幸男、14 年度事業報告と仮決算の作成・次期役員構成・その他）。

編集後記

ゴールデンウィークの谷間での編集会議。おかげで、家族をどこにも連れて行けないことの大義名分になり、大混雑からのがれられた。編集の方はいつものメンバーが全員揃って、にぎやかに無事終了。（内藤）

編集会議での話題は、もっぱら佐藤さんのビデオ。その行動力と執念には、全員舌を巻いて、脱帽して、感嘆しきりなのです。（海）

しらこぼと 2003 年 6 月号（第 230 号） 定価 100 円（会員の購読料は会費に含まれます）

発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル 1 階

（財）日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社